

CHALLENGER!



秋田市 佐藤 あゆみ (さとう あゆみ) さん

シェアキッチンの経営

「子どもが小さいから」「周りに反対されるから」「知識も経験も足りないし」。そんなふうに言い訳を探して、やりたいことに蓋をしてしまう人は少なくない。今回取材した「6坪カフェ」を運営する佐藤あゆみさんも、かつてはその1人だった。

そんな佐藤さんがシェアキッチンを開業し、今ではチャレンジする人を応援する立場になって活躍している。

なぜ佐藤さんは動ける人になれたのか。そして、スペースやキッチンを貸すだけではない6坪カフェの魅力と、佐藤さんの人物像に迫った。

転機をもたらした「シェアキッチン」との出会い

佐藤さんがシェアキッチンの存在を知ったのは、コロナ禍で相次ぐ飲食店の閉店にやるせなさを感じていた頃、偶然テレビで目に留まったニュースがきっかけだった。シェアキッチンとは、複数の作り手が一つの調理場を共同で利用する仕組みのこと。初期費用や固定費を抑えられるため、都市部ではリスクの少ない開業・運営方法として注目されていた。

佐藤さんは、シェアキッチンが、単なる共同調理場ではなく、やってみたいという想いを形にするための、挑戦のハードルを下

げる支援の仕組みであることに衝撃を受けたという。都会にはこんなものがあるのかという驚きと、自分がやりたいのはこれだという想いが一気に湧き上がったと振り返る。

もともと食に関わる仕事をしてきた佐藤さんは、いつか自分のカフェを持てたらという憧れを抱いていた。しかし、そのニュースをきっかけに、自分が本当にやりたかったのは自分自身が店を持つことではなく、挑戦したいと願う人を支える環境を作ることだと気づいたのだ。

6坪カフェの伴走支援

「諦める人を減らしたい！」

苦い経験を 誰かの悩みに寄り添う力に

佐藤さんが、チャレンジしたい人の背中を押す伴走者としてシェアキッチン始めた背景には、自身の過去の経験がある。

家族と不仲でやりたいことを口にするたびに親から反対されてきた佐藤さん。そのうち自分にはできないんだと諦めることが増えていった。反対されると思うと本心を出すことも苦手になっていき、学校でも職場でも孤立しがちに——相談相手や背中を押してくれる人もいなかった。

「自分の苦い経験や心の変化が、誰かの悩みに寄り添う力になるかもしれない。」そんな想いが積み重なり、6坪カフェという場をつくる原動力となった。

ここでは安心して挑戦でき、前に進むきっかけを見つけられる。その想いが今も佐藤さんの支えになっている。



挑戦者の一歩目が生まれる、こだわりのカフェ空間



自家製ドライフラワー。店内随所に佐藤さんのセンスが光る

場所貸しだけではないシェアキッチン「6坪カフェ」の支援

6坪カフェの価値は、場所の提供にとどまらない。

たとえばマルシェに出店したくても、開催まで全てを1人でこなすのは大変だ。そこで佐藤さんは「出張6坪カフェ」というお店としてブースを確保。出店者はその中で間借りの形で出店でき、商品づくりに専念できる。

また、日々の会話から出店者のニーズをくみ取るのも佐藤さんの役目。要望に対して必要だと思えば試し、不要ならやめる——そんな柔軟さで出店者の「やりたい」を支えている。

オープンから2年、挑戦を終え自分の工房を持つ人も現れた。佐藤さんは彼らを「卒業生」と呼び、「卒業生が秋田にあふれたら嬉しい」と微笑む。

挑戦から逃げた過去を持つ佐藤さんだからこそ作れた諦めなくていい温かい場所だ。

事業詳細

飲食店営業・菓子製造業・そうざい製造業の3つの許可が取得できるシェアキッチン。自分のつくったものを届けたいという想いを形にできる場所です。独立に向けた第一歩やイベント出店用の菓子製造、週末だけの営業、家庭や仕事と並行した複業など、幅広い挑戦を後押し。利用者同士の自然な会話やつながりも魅力のひとつです。

店舗名 6坪カフェ 住所 秋田県秋田市四ツ小屋字下川原139-4 駐車場 有り(5台)
営業日 インスタグラムの出店カレンダーに掲載 製造可能時間 3:00~22:00 (完全予約制)



instagram

佐藤さんからひとこと

この場所を、必要としている人へ届けたい!



もしあなたの周りに、境遇や環境で悩んでいる人や、始め方がわからない人がいたら、「6坪カフェっていう場所があるよ」と、そっと教えてあげてくださいね。